

No.198

令和3年3月5日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



「心を開いて相手に迫る」ということ

Rising Sun№164「教え子からのメッセージ」で、「挨拶は心を開いて相手に迫る」ことだということをお伝えしました。なぜこのような指導をしていたのか。学生時代偶然見ていた TV 番組で、司会者(今風に言えば MC でしょうか)が、「挨拶の『挨』は『心を開く』という意味があり、『拶』には『相手に迫る』という意味がある」と言っていたのを覚えていたからです。

「これは使えるぞ」と思い、担任した子どもたちには、繰り返し指導していました。そのうちの一人 T 君は、35年以上たった今でも記憶にとどめ、自分の仕事にも生かしてくれているなんて、驚きでしたし、まさに教師冥利に尽きる教え子からのメッセージでした。

改めて「挨拶」について詳しく調べてみました。

挨拶は、「心を開き、その心に近づく」という意味があり、大きなパワーをもっています。

1 感謝を伝えられる 「ありがとうございます」はもちろん直接的に感謝を伝える手段。他にも「おつかれ様」は「今日もお世話になりました」という意味も込められるでしょう。感謝の気持ちを込めて挨拶すれば、相手にもきっと伝わるはず。心のこもった挨拶は喜ばれます。

2 存在を認めているということを示せる 「心を開く」ということは、「存在を認めている」ということ。挨拶は、相手がいるのがわかったから「声をかけよう」と思っているものです。関わったことがない相手でも挨拶されると「私のこと気づいてくれたんだ」とうれしくなります。挨拶は承認欲求を満たす役割ももっているのです。

3 仲よくなるきっかけになる 挨拶は、仲よくなるための最初の一步。何回も挨拶することで、相手もあなたに心を開きやすくなります。「話しかけやすい人だな」と声をかけるハードルが下がり、コミュニケーションにつながるのです。

4 印象のよさを与えられる 第一印象は持続する

といわれます。挨拶は出会ってすぐするもの。あなたの印象を大きく左右します。挨拶はほんの数秒しかかかりません。それでよい印象を与えられるのであれば、こんなお得なことはありません。

5 緊張をほぐせる 挨拶には緊張をほぐす力もあります。緊張していても挨拶されるとほっとしますし、自分も声を出すことによって緊張が解かれます。

☆気持ちのよい挨拶のための三つのカギ

- 1 微笑む
- 2 相手の目を見る
- 3 伝わるようなボリュームで言う

さて、*Rising Sun*№35 で一度お伝えしたことがありますが、挨拶に関するセルフチェックを再掲します。生徒の手本となり得ているか自己診断してみてください。

- 朝、職員室へ入るとき、周りに聞こえる声の大きさを「おはようございます」と言っている。
- パソコンに向かっていても、手を休めて「おはようございます」を言っている。
- 朝、教室へ向かうとき、すれ違う生徒より先に「おはよう(ございます)」を言っている。
- 来客者や保護者に対して、自分からすすんで「おはようございます」「こんにちは」を言っている。
- 始業前、始業後「お願いします」「ありがとうございました」を生徒と一緒に言っている。
- 相手が生徒であっても、「ありがとう」を自然に言うことができる。
- 食前、食後の「いただきます」「ごちそうさまでした」を必ず言っている。
- 出張に出かけるとき、同僚や上司に「行ってきます」「出かけます」と言っている。
- ミスしたり約束ごとが守れなかったりしたとき素直に「ごめんなさい」を言うことができる。
- 帰宅する際、周りにいる同僚や上司に「お先に失礼します」「お先に」と言っている。